

## 各部会報告資料

- ・くらし部会(P1~2)
- ・子ども部会(P3)
- ・就労部会(P4)
- ・相談支援部会(P5~6)
- ・精神障がい者地域移行支援部会(P7)

平成26年11月21日

熊本市障がい者自立支援協議会

平成26年度 第3回熊本市障がい者自立支援協議会

くらし部会報告

【これまでの取り組みについて】

「当事者交流会企画班」「課題収集班」にわかれて、それぞれの班のリーダーを中心に実施している。グループホームの情報整理は終了し、データーをくらし部会参加の相談支援事業所については共有している。今後、特定相談支援事業所へのデーター共有を行っていきたい。ヨカ余暇情報便利帳については、当事者交流会での配布を目標に、現在編集中である。

○当事者交流会企画班

11月29日の実施に向け準備中。広報活動についても、就労部会等の協力も得ながら開始している。当事者交流会当日は、クイズと茶話会の2本立てで実施予定。クイズについてはチーム戦として、熊本を知ることも含めて問題を選定。自分たちの県のことを知ってもらったり、行ってみたいと感じてもらえるようにと考えて企画している。また、チーム戦にすることで当事者同士の緊張を少しでも和らげたいと考えている。

茶話会については、昨年度のアンケートで時間がもう少し長くしてほしいという声があり、アンケート記入も含めて85分を予定している。グループリーダーを担って頂いた方からは、意見を記録することが大変だったという声も挙がったため、簡単にメモし、グループ全員が共有できるよう木の絵が描いてある広用紙にメモを貼っていく形で実施していく予定である。

昨年の交流会で把握したバス利用時の意見については、交流会の中でバス会社の対応や取り組みについての報告を行う予定。

○課題収集班

くらしに関する課題の抽出のため実施したアンケートをもとに、くらし部会で取り組む課題と他の部会へ報告する内容とにわけている。

くらし部会で取り組む課題は、以下の2点を中心に実施していく予定である。又、難病・疾病団体協議会の中山委員から、12/2（火）に現状等を話して頂くことになっている。

○ヘルパーのスキルアップについて

（同行援護、移動支援に対応できるヘルパーが少ない、障害特性に応じた支援の難しさ、高齢のヘルパーから始めたところは障害への知識が不足等）

- ・ヘルパー事業所の方々に来ていただいて現在の現状や課題について話を聞く。
- ・ヘルパーを利用中の当事者の方にも来てもらい、話を聞く。
- ・話し合った結果は資料として現場のヘルパーにも伝わるように残していく。等

10月にヘルパー事業所からふくし生協、ケアサポートぴあさんに来て頂き、ヘルパー事業所の現状と課題、障がい特性に応じたスキルについて（移動支援や精神障がい者へのホームヘルプ）、ヘルパーの人材確保について話を伺った。今後、意見を整理していく予定。

○グループホーム・生活介護事業所（特に身体、入浴をやっているところも少ない）の不足について

今後の予定について(11月～3月)

	内 容	
11月	29日(土) 当事者交流会の開催	○ヨカ余暇情報便利帳更新終了
12月	○2班合同で開催 9:30～ ①当事者交流会の振り返り 10:30～ ②ミニ研修:難病・疾病団体協議会の中山委員より、現況や今後の動向について	
1月	○各班での作業のまとめ 【当事者交流会企画班】 アンケートの集計、意見の取りまとめ	【課題収集班】 課題の検討
2月	○各班での作業のまとめ 【当事者交流会企画班】 次年度の取り組みについての検討	【課題収集班】 次年度の取り組みについての検討
3月	○平成26年度まとめ ○平成27年度の計画・検討	

# 子ども部会 実績報告

## ○部会開催報告

### 第6回（9月10日）

1. 子ども部会に参加される事業所の自己紹介（放課後等デイサービス事業所2ヶ所）
2. グループワーク
  - 余暇活動などのサービスマップ作り

### 第7回（10月8日）

1. 放課後等デイサービスのアンケート項目について
  - \*事業所向けアンケート依頼文を作成、OKが出たところに「事業所向け」「利用者向け」アンケートを依頼。
  - 設問の検討（事業所向け、家族向け、学校との連携ほか）
    - ・全国的な調査の設問を参考に設問項目を決定
  - 依頼分の配付、アンケート配布及び回収の方法について検討

## 26年度後半の予定

- 放課後等デイサービスのアンケート…アンケート項目が決定次第、事業所向け、利用者向けにアンケートを配付。回収後は、質問のカテゴリ別に分析担当を決め集計にあたる。  
できれば、次回自立支援協議会には結果を報告したいと考えている。
- 放課後余暇支援マップ作りも並行して進めていく。

## 平成26年度 第3回熊本市障がい者自立支援協議会 就労部会報告

### 今年度の取り組みについて

今年度は“連携”をキーワードに、「ガイド」、「福祉計画班」、「A型サポート班」、「企業とのかけ橋班」、「ケース検討班」、「連携作り班」の6班が作業内容や状況に合わせて柔軟に連携しながら、目標達成に向けて作業に取り組んでおります。第3回目より、運営委員会で企画したミニ研修を実施しております。

#### 【各作業班の進捗状況】

**ガイド班** ・ガイドブックの更新  
→ガイドブックの新たな様式を各事業所に配布し、回収データの編集作業

**企業とのかけ橋班** ・企業の視点を中心とした広報誌“しごといく（第3弾）”を作成  
→4企業にインタビューを実施

**福祉計画班** } ・A型事業所のサポートについて検討  
→研修会の開催とアンケート調査の実施予定（平成27年2月）  
**A型サポート班** } \*第6回より2班共同で作業をすすめることとなる

**ケース検討班** } ・ケースの課題等の検討・まとめ  
**連携作り班** } \*第4回より2班共同で作業を進めることとなる

#### 【ミニ研修内容】

9月：「障害者優先調達推進法及びアンテナショップUMUについて」

熊本市障がい保健福祉課 山本氏 / アンテナショップUMU 店長 矢上氏

10月：「精神障がいの基礎知識を学ぶ」熊本市こころの健康センター 医療主幹 長谷川氏

#### 【情報交換・共有】

参加者の方より研修会の案内や各事業所の取組等の情報を発信していただき、共有できるような情報交換の時間を設けております。

#### 【運営委員会の設置】

各班のリーダー、サブリーダーと事務局で運営委員会を設営し、部会がスムーズに進行するよう、就労部会とは別の日時に話し合いの場を設け、各班の進捗状況の報告や進行について検討を行うとともに、ミニ研修の企画運営を行っております。

平成 26 年度 第 3 回熊本市障がい者自立支援協議会  
相談支援部会報告

開催日時 第三水曜 15:00～17:00

参加者 熊本市指定相談支援事業所 35 事業所 行政職員

相談支援部会の目的

- ①相談支援専門員の質の向上
- ②熊本市における相談支援体制の強化
- ③相談支援事業所の情報の共有、効率的な計画相談の対応に向けた基盤作り

平成 26 年度は上記の相談支援部会の目的を踏まえた上で、以下の 4 つの班に分け、前半はミニ研修、後半は班単位の作業を行っています。

【8 月～10 月までの取り組みの実績報告と今後の計画】

① 「研修班」

ミニ研修

8 月 サービス等利用計画についてグループワーク

各自、事例を持ち寄り少人数での意見交換

9 月 障がい児の支援について

障害児支援利用計画作成についての留意点、関係機関との関わり、

母親へのサポート体制など

10 月 ミニ研修実施なし（今後の研修計画）

11 月 熊本市ひきこもり支援センターリンクの取り組みと相談支援事業所との連携について

12 月 薬剤師との連携、精神薬について(仮)

1 月 事例検討(仮)

2 月 年間まとめ

② 「計画相談マニュアル作成班」

計画（障害児）相談支援を含めた支給決定、利用等のフロチャートに沿って相談支援専門員が参考になるチェックリスト等を挟んで項目ごとに確認している。

現在少しづつたたき台を作成、検討を行っている。

③ 「Q & A班」

Q & A記入様式にて、各事業所より、サービス利用計画作成やモニタリング時、他事業所との連携などについて日々の業務についての疑問点などを収集。 ↓

収集したQ内容を項目ごと分類中。

今後、分類した内容を、熊本市への質問依頼、マニュアル作成班へ掲載依頼など、具体的にまとめて、参加者の皆様へA(回答)を年度末までに提示できるように準備していく予定。

④ 「現状分析班」

部会開催時に、計画支援事業所のサービス利用計画の現状等の確認のアンケートを実施し、各区レベルでの計画相談の空き状況の確認を行っている。

集計結果を区ごとにまとめ、各相談支援事業所へメールにて連絡。新規の計画相談依頼者への対応の時に参考にしている。10月部会以降、各区へも情報提供する。

アンケートの中で、各事業所より挙げられた困っていることについては、Q & A班、研修班に情報提供し活用してもらう。

## 平成 26 年度 精神障がい者地域移行支援部会（障がい者自立生活体制検討会）

## 【これまでの経過と今後の予定】

## 1 高齢精神障がい者への支援について

6月～10月の部会で高齢精神障がい者が置かれている現状や実態・課題の整理・対応策について小グループで検討し、今後の取り組みについて別添のとおり整理した（資料①、②）。

また、8月に養護老人ホームに関する普及啓発研修会を実施。部会参加者に加え福祉課高齢福祉班も呼びかけ、参加者は48名となった。講話内容については、参加者の9割以上がよくわかったとの回答であり、感想としては「入居者の現状、施設の動向や役割がわかった」「施設との連携が必要」「介護分野との情報交換が必要」等の感想があった。今後も定期的な情報交換の方法を検討し実施する予定。

## 2 テーマ別グループワーク

昨年度から継続している各テーマについての検討は9月で一旦終了し、今後の活動に取り入れる予定。

テーマ	取り組み・検討内容
普及啓発 A グループ (病院・事業所等の 専門職対象)	・専門職向けの研修会を企画する。対象は病棟スタッフ（コメディカル等）を予定。内容は、事例を通じた制度説明、事業所からの話題や当事者の生活体験談等を取り入れる。
普及啓発 B グループ (地域住民・当事者等対象)	・5月にささえりあを呼んで研修会を実施。今後も外部の関係機関を呼んで研修会を継続開催し、連携強化が必要。 ・情報の集約と提供の方法を検討する。
ピアサポート活用 グループ	・事業の啓発を継続し、利用する側もよく理解して活用する。 ・ピアサポーターが疲労しないような関わり・取り組みを検討する。

## 3 事例検討

10月より、参加者から提供された困難事例・成功事例を小グループで検討し、意見交換を実施する。

11月は、平成24年度の部会で作成した「事例集」を活用して地域移行支援ポイントを整理し、その後、事例検討を実施予定。

12月は、地域相談支援の制度について再確認することを目的に、自立支援班から制度説明をする予定。